

# ハウスみかん

～生産量日本一を誇るハウスみかん～

佐賀県北部に於けるみかん栽培は、江戸時代の末期に現在の唐津市浜玉町で栽培されたのが始まりと言われ、明治に入り本格的に栽培が始まったとされている。それ以来露地での栽培を続けていたが、昭和40年代に入ると産地間競争が激化しこれに勝ち得るため昭和47年から天候に左右されないハウスみかん栽培を取り入れた。浜玉町の温暖な気候から考えてもハウスみかん栽培が適していると判断された。

昭和47年1戸の農家(10a)から始まり徐々に増えはじめ昭和50年代後半から佐賀県の補助事業を取り入れることで急激な面積増加となった。昭和60年代からは面積、生産量が全国一の規模を誇るようになった。(旧JA松浦東部：最大組合員数295戸、最大栽培面積119ha)

ハウスみかんは、露地みかん栽培と比べ天候の影響が少なくハウス内での温度、湿度調整が出来、食味での糖度・酸度等が消費者嗜好に合い、また高級感があることなどから全国的に増加した。この様な中で消費者により安心して購入してもらうため、平成15年度から光センサー選果機を導入しより高度な選果を行うようになった。しかしながら昨今の重油高騰(A重油は平成の初め37円/ℓが平成22年74円/ℓ、最高価格は平成20年120円/ℓ)の影響で肥料、農薬、諸材料までが高騰したため、生産者数、生産面積が大幅に減少した。この様な状況下でも他産地と比べると後継者、ハウスみかん生産に意欲を持った生産者が多いため、現在では全国の約30%(現在のJAからつ生産量6200t)を占める生産数量を誇っている。今後は農家の経営安定を図るためいかにして経費の削減を図るかが最大の課題となっている。

## ・唐津でのみかん、柑橘の栽培品目

(常緑果樹はみかん類と柑橘類に分類する。)

みかん類の栽培品目＝上野早生、宮川早生、興津温州、大津四号、青島温州など。(ハウスみかんはこの中で、上野早生、宮川早生、興津温州が主体です。)

柑橘類の栽培品目＝不知火(デコポン)、清見、せとか、あまくさ、ネーブル、伊予柑、甘夏、ポンカン、アンコール、マーコット、はるか、はるみ、麗江(はまさき)など多く栽培されています。

## ・生産者の話

浜玉町の栽培農家Eさんは「ハウス栽培の苦勞はハウス内の温度・湿度の管理です。自動温度管理者や雨センサーなどの器械を設置していても、一番大切なことは人の目で確認することです。また、みかんの木の成長に合わせてタイミングを計りながら加温したり、ハウスを開閉したり多くの知恵と努力が必要です。」と言われていた。そういう愛情いっぱいの中で育ったからこそ人を感動させる美味しいみかんが出来上がるのである。

分野 産業

地域 浜玉

◎地図・写真・統計資料など



浜玉ハウス全景  
(唐津新聞社より)



ハウスみかんの箱  
(『郷土につくした人々』より)



実ったみかん  
(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献(出典)

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)